

採択事業 NO.7

種 別：行政提案型

団体名：たからづか縁卓まちづくりネット

事業名：高齢者から子育て世代、子どもまでの交流によるお互いさまのまちづくり

交付決定額：382,000 円

（事業を行おうとした動機）

宝塚市は平成27年に“高齢者にやさしいまちがあらゆる世代にやさしいまちになる”というWHOグローバルネットワーク「エイジフレンドリーシティ」に参加しました。その一環として平成30年度から市民参加による縁卓会議が発足し、その中に、高齢者が無理ない範囲で介護施設等で短時間就労を行う事業を推進する「健康・生きがい就労」部会、子育て支援世代が集い情報交換を行う「居場所」部会、及び諸活動の情報発信を行う「広報・情報」部会が作られました。

健康・生きがい就労部会が推進した“健康・生きがい就労3か月トライアル”事業では、高齢者が役割を担い活動することで元気・健康を維持でき、また福祉分野で活動することで、その社会貢献感から高齢者の生きがいをも高めることが、参加された高齢者達のアンケート調査やトライアル終了後も8割近くの方が就労を継続されたことで確認されました。この事業については神戸大学や東京都健康長寿医療センター研究所の研究テーマとして取り上げられたほか、国の健康寿命をのばそうアワードやアジア健康長寿イノベーション賞でも表彰されました。その中で他自治体への普及が望まれたことから、部会メンバーが中心になり他地域のメンバーも参加する形で「NPO法人健康・生きがい就労ラボ」を結成しました。現在、摂津市、大東市、高槻市と導入が広がる中、今年度からは大阪府 兵庫県もその普及の後押しを開始されました。

居場所部会からは、“世代間交流”“地域ぐるみの子育て”をテーマに「宝塚ミライキャンパス」（任意団体）がコロナ禍で立ち上がりました。子どもたちの育ちは本来、親だけでなく、地域全体で支えていくものです。しかし今の社会では核家族化が進み、子育て世代は地域社会から孤立しており、手助けをしてくれる親戚もない中での子育ては不安でしんどいものとなり、少子化も進む一方です。宝塚ミライキャンパスでは、こうした地域での孤独な育児環境を解決すべく、令和2年から「地域で子育て応援プロジェクト こもたの（子育てをもっと楽しくの略）」を宝塚市内の9つの子育て支援団体とともに立ち上げ実施してきました。令和4年に開催した子育て応援イベント「こもたのカーニバル」では、市内のまちづくり協議会や自治会、社会福祉協議会地区センターの協力や、老人福祉センターとボランティア活動センターからの高齢世代のボランティアにも多数お手伝い頂き、運営スタッフ100名、来場者750名 計850名の参加がありました。

そして、令和4年5月コープこうべ協力のもと、宝塚市鶴の荘に「まちのつどいばここおる」という、世代間交流施設がオープンしました。先述のNPO健康・生きがい就労ラボ、

宝塚ミライキャンパスのメンバーとコープこうべが協働で運営し、近隣自治会、まちづくり協議会とともに町の活性化を目指しています。運営ボランティアとして、地域の方が協力してくださり、子育て世代と高齢者が共に運営を担っています。スマホ相談や近隣病院の看護師による健康チェック、コミュニティカフェや親子ひろばなど多種多様な活動を展開しています。

NPO健康・生きがい就労ラボは、これまで高齢者が人手不足の介護分野の支援を行う活動を中心に行なってきましたが、少子高齢化が更に進む中で、逆三角形人口ピラミッドのボリュームゾーンである高齢者がその潜在力を発揮し、子ども・子育て世代を支援し、世代間が交流することで、世代間対立解消や少子化対策、持続可能な地域づくりなど社会課題解決へと動き出すための活動（仕掛けづくり）が必要になっていると認識しています。

高齢者・祖父母世代による子育て支援には、子育てをしている世代に対する①手段的サポート、②孤立などに対応した情緒的サポート、③子どものコミュニケーション力や発達など社会化に関するサポートがあり、専門家の助言なども取り入れたより有効な活動を行っていく必要性を感じています。

今回、上記につて、高齢者の活動をサポートしてきたグループと子育て世代をサポートしてきたグループなどが改めてタッグを組むことで、子どもから高齢者までカバーする、より実効性のあるお互いさまのまちづくりを実施していくことにしました。

（事業を行う目的と期待される効果）

◆リタイヤした高齢者にとって、“今日行くところ”がある、“今日用がある”生活が重要とは以前から言われてきたことです。高齢者にとってその時間を子育て支援に関する活動に使うことで、社会課題に対する貢献感、社会的役割を担うことでの充足感を満たす効果、活動することによって身体運動だけでなく脳が適度に刺激を受けるなど心理・精神健康面での効果、更には自分の人生の経験を活かしながら今の育児などを学べる、子どもから元気ももらうなど様々な効果が期待できます。また、子育て支援を受ける世代から感謝される、子どもが普段接する人とは違った世代・異文化と接することで新たに学ぶなど交流により世代間対立を解消していく効果が期待できます。

具体的には、以下の①②③などにより啓発されたより多くの高齢者が、子育てに関する相互援助活動を支えるファミリーサポートセンターの講習会などに参加しサポート活動を開始する、健康・生きがい就労トライアルに保育サポーターとして参加する、子どもへの読み聞かせや昔遊び伝承へ参加することなどをめざします。

① 知る・学ぶ（高齢者向けタブロイド誌発行）

地域の高齢者が今どきの子ども・子育てについて学び、地域の子育て世代の声に触れる機会をつくることで、高齢者が子育てに積極的に関わるきっかけになったり、地域ぐるみで子育てをサポートしていく機運を高めることができます。

② 共に創る（世代間交流イベント まちフェス）

市内各所で活動する市民団体がワークショップや活動紹介展示に参加することで、活動の周知ができ、活動への理解が広がります。

子育て世代から高齢者までが共にイベントを企画運営することで、お互いの価値観を認め合い、相互理解が深まり、「お互いさまがあふれるまち」となるための協力体制ができます。

③ 聴く・交わる（講演会）

高齢者向けの講演会では、専門家から今の子育てについて学べるほか、高齢者が子育て世代・孫世代と交流すること、地域で子育てを応援することの意義、様々な活動事例についての話しを聴くことができ、宝塚市内での活動機会についての情報を得ることができます。

また、子育て世代も講演会に参加することで、高齢者など様々な人たちが子育て応援活動に参加することへの効用などについて理解・認識を深めることができます。

（事業の内容）

① 高齢者に向け子育て応援タブロイド誌（B4新聞）発行（年2回発行・各3000部）

高齢者に向けた地域の子育て支援情報、今どきの子ども・子育てについて、読者が地域の子育て支援活動に関わってみたいくなるような記事を集めた刊行物を作成・発行し、イベントでの配布や市内施設などに配架。

手に取りやすく、記事が目につれやすいよう、冊子ではなくB4サイズの新聞（タブロイド紙）を採用し、デザインにこだわることで、子育て世代が興味を持って祖父母へ渡したくなるような刊行物をめざす。

さらに、子育て応援LINE「こもたの」と連携し、市内の子育て世代の「してもらって嬉しかったこと」などリアルな声を収集・掲載することで説得力を持たせ、高齢者が活動を始めるための背中を押す。

宝塚ボランティアプラザ zukavo などと連携して市民ライターを募集するなど、「高齢者向けタブロイド誌プロジェクト」を立ち上げ、地域の子育て世代や若者が地域の高齢者の活動応援に積極的に関われる仕組みづくりも同時に行う。

持続可能な活動にするため、市内で子育て応援事業を行う企業や事業者などから協賛金を集める予定。

② 世代間交流イベント

「まちフェス」参加予想人数 400人

12月3日(日)12時～16時 於：宝塚市文化芸術センター

まちづくり協議会による竹とんぼ、紙風船など昔遊び体験会

宝塚市立老人福祉センターとタイアップした一芸先生などによるマジック、腹話術、紙芝居などによる世代間交流

市内の子育て応援に関わる団体のワークショップ、活動紹介パネル展示

協力：宝塚ボランティアプラザ zukavo、宝塚市立老人福祉センター、NPO 健康・生きがい就労ラボ、宝塚市ファミリーサポートセンター

市内の子育て応援活動のネットワーク作りや親子向けイベントの企画運営など、地域で子育て応援プロジェクトを行なう「こもたの（子育てをもっと楽しくの略）プロジェクト」とのコラボイベント

高齢者の知識・経験を次世代に繋ぎ、また高齢者の地域貢献活動の機会として、活動紹介コーナーやワークショップブース、運営ボランティアとして、地域活動をしたことのない高齢者を巻き込みつつ、地域の交流の活性を図る。

※関連事業「こもたのカーニバル」：12月2日(土)宝塚市文化芸術センター

(主催者：こもたのプロジェクト 対象：子育てファミリー)との相乗効果を期待

③ 講演会

「今ドキの子育て、孫育て」参加予想人数 100人

2月12日(月・祝)13時半～15時半 於：ソリオホール

ゲスト：NPO 孫育てニッポン 理事長 棒田明子さん

京都橘大学准教授、カウンセリングルーム天満橋 代表 濱田智崇さん

産後母親ひとりが子育てを抱え込むのではなく、父親、おじいちゃん、おばあちゃんなど家族のつながり、そして、地域の中で子育てができる社会になるよう活動しているNPO法人孫育てニッポンの棒田氏と、長年相談員として、主に父親の子育てに関する悩みに寄り添って来られ、自身も子育て中である濱田智崇氏をゲストに招き、孫育て(イマドキの子育て事情、孫とのあそび、付き合い方)と子育て(子・孫との関わり、祖父母との付き合い方、一人で頑張りすぎない子育て)についてお話しいただく。

また、宝塚市内で子育て応援活動を実施している方にファシリテーターとして入っていただき、ワークショップを通じて、地域で子どもの成長を育むことについて、参加者みんなで考える。